

## ニュースレター

# 「SDGs・ESD をひろげるための“ちば”拠点づくり」

### 【開催報告】SDGs・ESD フォーラム～みんなでつながる地域拠点を創ろう～

- 日時 2021年7月4日(日) 13:00～15:30
- 会場 南房総市とみうら元気倶楽部さざなみホール&オンライン (Zoom)
- 参加者 76名 (参加者:会場41名 Zoom:35名)
- 次第 趣旨説明  
南房総市の紹介  
紹介者:小谷 亮 氏 (南房総市市民生活部市民課 市民協働グループ)  
講演「SDGs・ESD で取り組む持続可能な地域づくり」  
講師:島田幸子氏 (関東地方 ESD 活動支援センター)  
事例紹介「大房岬(場)を通した千葉自然学校の地域との取り組み」  
紹介者:神保 清司 氏  
(南房総市大房岬自然の家 所長 NPO 法人千葉自然学校 事業部長)  
意見交流(会場・Zoom)「持続可能な地域づくりに向けて」
- 後援 千葉県 南房総市 市原市 ESD 活動支援センター

### ■内容

参加者は、主に南房総市内外で環境保全・地域づくり・観光・教師・銀行・行政等多様であった。開催趣旨は、SDGs・ESD をひろげるための“ちば”拠点づくり事業の一環として、開催する。具体的には、千葉県南地域で多様な主体がつながることが、地域の環境を守り、持続可能な地域づくりとなる。そこには、“人”が“つながる”“拠点”を創ろうとよびかけた。

小谷氏からは、南房総市は第1次産業と第3次産業が主である。総人口の46%が65歳以上となる。課題はあるが元気な市民と協働のまちづくりを展開している。7つの地域協議会の活動や市民提案型街づくりチャレンジ事業について紹介があった。

講演の島田氏からは、ESD についての解説と全国の8カ所に地方 ESD 活動支援センターがあり、ESD の活動支援や人材育成機能など ESD 推進の広域的なハブ機能を担っていること。SDGs については、SDGs が作られた背景、17のゴールと169のターゲット、203の指標があること、自治体向けのSDGs ガイドライン、「ESD for 2030」、第2期国内実施計画、新学習指導要領のスタートしたこと等の最新情報まで、詳細な説明があった。

神保氏からは、森を身近に感じる手段として、キャンプ、ハイキング、ネイチャークラフト等の体験活動を展開してきたが、令和元年台風15号の被害にあい、大きな転機が起きた。森を育む土壌改善作業、在来の雑木苗木を育てるなども行っている。海を身近に感じる手段として、磯の生き物観察・穴釣り・見釣り・コーステアリング・ビーチコーミング・ウミホタル観察の体験活動を展開している。最近、磯焼け 海草・海藻の激減 海ごみの増加などの問題がある。体験活動や、海洋プラスチックごみを拾いアート作品として海の環境を体験するなど、具体的な活動の紹介だった。

意見交流会では、持続可能な地域づくりにむけて、「こうしたらもっとよくなるなど」の意見を出していただいた。南房総の資源を活かすために、地域+地域外との交流をひろげる、地域に若い力を引きこむ、SDGs の視点で多様なつながりを持つ等、会場や Zoom からの熱い思いが出された。

このような意見を形にするための「第1回地域拠点づくり会議」(8月4日開催)へ参加協力をお願いして閉会となった。

## 【開催報告】 第1回拠点づくり会議

- 日 時：8月4日（水）13：30～16：30
- 場 所：Zoom開催 ■参加者：32名（市民団体、事業者、行政）
- ファシリテーター：石井雅章氏 神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部 教授
- 主 催：NPO 法人環境パートナーシップちば
- 内 容：
  - ・参加者自己紹介
  - ・拠点づくりへの趣旨説明（主催者）
  - ・拠点づくりに向けてワークショップ（ブレイクアウトルーム）

前ページに掲載の「SDGs・ESD 公開フォーラム」（7月4日開催）の意見交流会で出された意見を具現化しましょうと、第1回拠点づくり会議参加者を募った結果、35名の方が手を挙げてくださり、8月4日の会議には32名が参加されました。新型コロナの緊急事態宣言を受けて、急遽オンラインのみでの開催となりました。参加者は、地域で活動している環境系・まちづくり系のNPO、ホテル、銀行、デザイン関係の事業者、教員、市民協働課や企画などの行政他、多様な方々でした。

自己紹介：所属団体の紹介、地域とのつながり、地域づくりへの思いなど。

趣旨説明：2018年～2020年までのSDGs・ESD地域リーダー担い手事業の結果から、持続可能な担い手を育てるためにも、拠点づくりが必要と言えること。拠点づくり会議（3回開催）の主な協議内容について。

- 第1回（8月）：拠点づくりの意義と地域の声を聴く
- 第2回（11月）：ありたい地域を実現するためのアイデアの検討・整理
- 第3回（3月）：拠点の機能、運用方法の検討・整理（拠点設置）

拠点づくりワークショップ：ファシリテーター石井氏が、参加者を6グループに分けてのブレイクアウトルームを2回開催し、ルーム内では活発な意見のやり取りが行われました。

テーマ① 持続可能な社会という視点から考えたとき どんな地域でありたいですか？

意見：「子どももたくさんいて、にぎやかな声が聞こえる街」「都市部と南部のギャップをなくす」「自然・体験ができる地域」「多様な人を受け入れる」「都市部に行っても帰ってくる所」「地域と交流できる」「子どもたちが暮らしていける街」

テーマ② ありたい地域イメージと比較して、現在はどうのような状態ですか？

③ ありたい地域イメージに近づくため、どんなことアクションができそうですか？

※②と③のテーマは、テーマ①と同じメンバー。

意見：「過疎化・高齢化が深刻な問題→移住者・地元をつなぐことが重要」「県南は自然も豊かであると思う→環境を守り、自然と共生すること、開発のバランスがあるといい」「新住民と地元がつながりにくい→Uターン組だと、地元の良さもわかるし、新住民の気持ちもわかるので、つなぐ人になりたい」「自然の豊かさを資源にして経済がまわる南房総であって欲しい→「ジビエ」の利用」「過疎化などで人口は減っているが、かわり人口を増やす工夫をする」「豊かさの基準、ものの価値観など考える」

以上、いろいろな視点で、ありたい地域への意見が多く出ました。

これらをふまえて、次のテーマ「ありたい地域イメージに近づくため、この拠点でどんなことができたらいですか？」は、各自の宿題となり、第2回の会議で協議します。

## 「ひろげる人づくり～SDGs ちばユース活動発表会に向けた活動」

10月17日のエコメッセちばでの発表を目標に、ユース発表会チームが活動開始しました。チームメンバーは、昨年のユースプロジェクトメンバーに新メンバーが加わっての6名と事務局2名のスタートになりました。コロナ対策のため、メールとZoom会議での意見交換で活動を進めています。

はじめに、2021年度千葉県南部地域に「ひろげる場づくり～SDGs・ESDをひろげるための“ちば”南拠点」づくり活動とも連動させるように、参加者：高校生・大学生年代の若者、受け入れ団体：地域づくりをしている団体を対象に、「地域づくりボランティア体験交流会」を実施することにしました。

7月4日の公開フォーラムでは、地域づくりしている団体に「地域づくりボランティア体験交流会」協力とプログラムの提案をお願いし、夏休み前の7月11日には若者に向けて募集を開始する、という大忙しなスタートとなり、具体的な取り組みになって行きました。

ご協力いただいた7つのプログラムの参加者募集広報を進めながら、ユース発表会チームでは、各プログラム現場に行き、見て聞いて体験もしたことを報告に残す作業、事務局（環境パートナーシップちば）は受付事務作業や団体と若者をつなぐ、ということ役割分担して、共有しながら進めています。



9月には、受け入れ団体と参加の若者のオンライン交流会「プラスチックごみアート(浦安三番瀬を大切に作る会)に向けて、日程の調整をしています。その先の10月17日の「SDGs ちばユース活動発表会」の開催企画についても、この交流会で意見交換しながら進めたいと考えています。

ユース企画がこのように短期間で進められたのは、昨年までのSDGs・ESDプラットフォームでのユースプロジェクトの中に、「持続可能な未来のためには、ユースの視点・ユースの体験の場・ユースと共に働く体験の場が必要」という共通の思いがあったからこそだと思います。まだまだ、体験参加者への広報も、受け入れ団体とのマッチングも課題はたくさんありますが、近い将来、若者と協働できる拠点活動ができそうな明るい予感にあふれています。

以下は、7つの「地域づくりボランティア体験」プログラムと受け入れ団体からの一言になります。

	体験プログラム	体験受け入れ団体（団体から一言）
1	夏休み宿題応援！「SDGsX 探求塾 boocs」ワークショップ	探求塾 boocs(小学生対象夏休み自由研究、SDGsを学ぶワークショップと海岸引率のお手伝いです)
2	まちづくりインターンシップ@SDGs スケラム	ANESAKI ACADEMY(持続可能なまちづくり(社会実験)が企画段階から体験する貴重な機会です)
3	プラスチックごみアートから持続可能な海を考える	浦安三番瀬を大切に作る会(若者のアイデアをアートに。楽しみながら三番瀬を体感してください)
4	南房総の里山で古民家の改修や畑づくり、裏山を開拓しよう！	シェア里山「ヤマナハウス」(里山を舞台に遊びましょう 事務局から：古民家でも遊べます)
5	いすみ川リバークリーンクルーズ	NPO 法人いすみライフスタイル研究所(川の自然環境保全と SUP で健康増進目指しましょう)
6 7	GOGO ボランティア～ゴミ拾い&プラスチックアートから持続可能な地域連携を作っていく～いなげの浜・富浦原岡海水浴場	千葉愛の教会&プロデザインスタジオ(都市部の方々と地元の方を繋げる交流型イベント「W/project」として、砂浜の現状を知りながら、漂着したプラスチックごみでアートイベントを実施しています)

# SDGs・ESD 理解促進公開セミナー

暮らしと自然環境は一体です。人口・産業の縮小、環境問題など様々な課題について、地域で力を合わせ新たな活力を想像したいという思いは共通ではないでしょうか？

地域の環境保全・持続可能なまちづくりに向けて、多様な組織・人の連携の促進に先進的・実践的に取り組んでいる事例から学びます。

■開催日時：2021年10月3日（日）13：30～16：00

■会場：南房総市とみうら元気倶楽部さざなみホール&オンライン(Zoom)

■主催：特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば

■後援：千葉県 南房総市 館山市 鴨川市 市原市 ESD 活動支援センター

■プログラム

I部：**基調講演**

「自治体の地域づくりを通じた SDGs+ESD 実践」 (Zoom 講演)

大崎地域世界農業遺産推進協議会 事務局長 高橋直樹氏

(大崎市産業経済部世界農業遺産推進課長)

**事例紹介 千葉県南部地域での活動事例紹介**

事例紹介① 「持続可能な環境としての獣害対策 等」

合同会社アルコ 代表 沖 浩志氏

事例紹介② 「移住・定住促進の「まちづくり」」

NPO 法人いすみライフスタイル研究所副理事長 江崎 亮氏

II部：意見交流会 (会場・Zoom)

・事例紹介者への質疑

・参加者の交流

【お申込み】 9月26日（月）までに (e-mail)seminar-entry@kanpachiba.com へ  
件名「SDGs・ESD 公開セミナー申込」とし ①氏名 ②電話 ③所属団体  
④希望の会場（リアル会場かオンライン Zoom）を記入の上お申し込みください。

## 第2回拠点づくり会議のお知らせ

◆日時：11月3日(祝) 13：30～16：00 ◆会場：とみうら元気倶楽部、オンライン

◆内容：ありたい地域を実現するためのアイデアの検討・整理

◆ファシリテーター：石井雅章氏 ◆主催：(特非) 環境パートナーシップちば

拠点づくりに関心・興味のある方のご参加を歓迎します。

[info@kanpachiba.com](mailto:info@kanpachiba.com) に、氏名、住所、所属団体、連絡先(e-mail、電話)を

ご記入の上、**10/10 まで**にお申し込み願います。

お問合せ：特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば <https://kanpachiba.com/>

e-mail：[info@kanpachiba.com](mailto:info@kanpachiba.com) Tel:090-8116-463

この事業は、地球環境基金の助成を受け実施しています。

